

2. 経営安定性－損益分岐点比率－

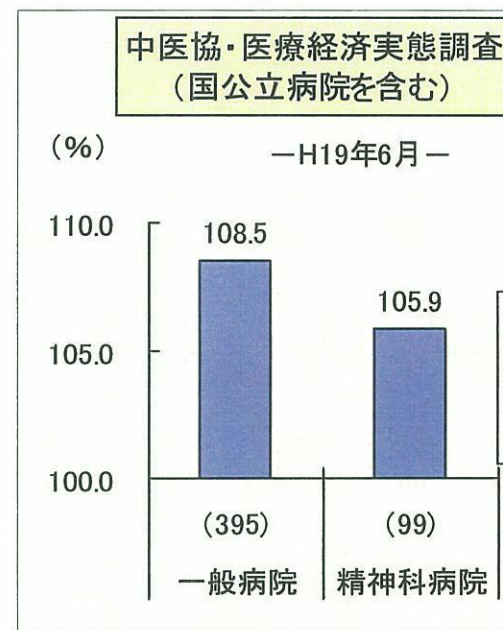
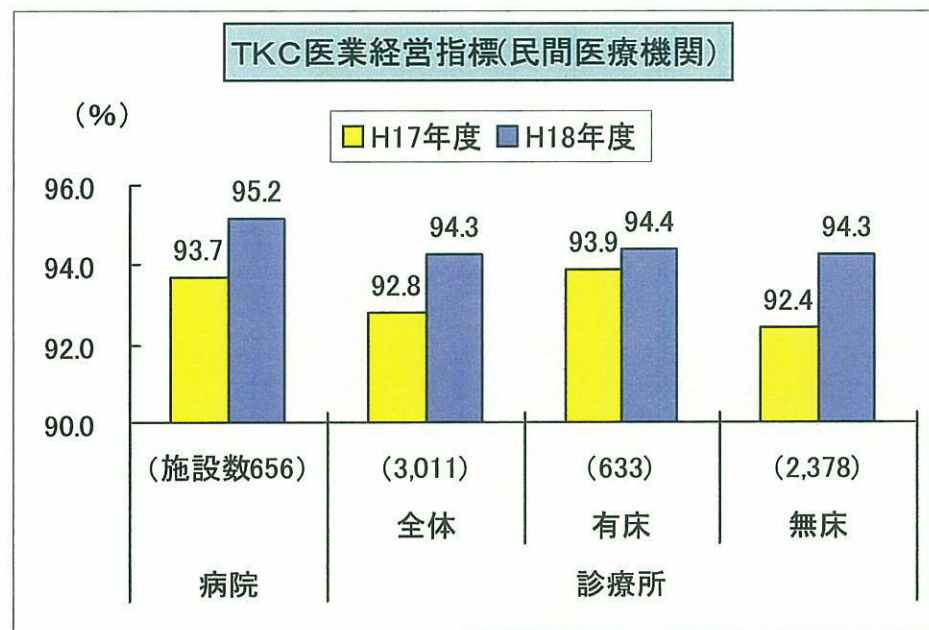
「TKC医業経営指標」*1によると、経営安全性を示す損益分岐点比率は、民間医療機関で約95%となり、危険水域といわれる90%台に突入している。

中医協「医療経済実態調査」で国公立病院を含めて見た場合、病院では100%超と赤字であった。

損益分岐点比率：

90%以上(10%超の収入減で赤字)：危険／80～90%：普通／70～80%：やや優良／70%以下：優良
判定のしかたは様々であり、80～90%を「注意」とするものもある。しかし、90%以上は「危険」という認識で一致している。

損益分岐点比率(法人)



「TKC医業経営指標」には国公立を含まないため、中医協「医療経済実態調査」で示した。

*1 TKC医業経営指標は、TKC全国会(会員数約9,500名の税理士、公認会計士のネットワーク)による編纂。第三者による信頼性の高いデータとして日本医師会が提供を受け、分析している。